家庭学習の手引き

～「学び続ける人」の育成をめざして～

保存版

家庭を学びの環境に

～「学び続ける人」の育成をめざして～

その１　基本的な生活習慣を身に付けましょう
（早寝早起き・朝食・朝の排便を大切にしましょう）
その２　家庭の学習環境を整えましょう
（決まった場所で一定時間、テレビを消して学習に集中しましょう）
その３　学習習慣を定着させましょう
（基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けましょう）

おおさわ学園

家庭学習の充実を図るために～学び続ける人をめざして～

基本的な生活習慣を身に付けましょう

家庭学習の習慣を身に付けるためには、まず規則正しい生活習慣を身に付けることが大切です。しかし、中には朝食を食べずに登校し、力が出ないまま午前中を過ごしている子どもや、就寝時刻が夜の10時を過ぎ、日中に「眠気」や「だるさ」を訴える子どももいます。

毎日の生活で、早寝早起きを心がけ、規則正しくバランスのよい食事をとり、朝の排便がきちんとできるよう、基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。子どもに合った１日の生活のリズムを確実につかませることにより、起床してから余裕をもって食事、排便、登校の準備ができるようにしましょう。

家庭の学習環境を整えましょう

基礎学力を定着させ、「学ぶ力」を育てるためには、学校での授業だけでなく、家庭での学習習慣が大きな役割を果たします。学校で子どもたちの主体的な学びを育て、学び方を身に付けさせると同時に、家庭ではお子さんの基本的な生活習慣を確立し、決まった場所で一定の時間、学習に集中して取り組ませるようにすることが重要です。さらに、テレビやゲームの時間が決まっておらず、１日３時間以上テレビを見たりゲームをしたりする子どもたちも増えています。学習をする時はテレビを消して、学習する場の整理整とんをするなど、集中して学習に取り組むことのできる環境を整えることが必要です。毎日の生活習慣を見直し、勉強をする場所や時間、テレビやゲームをする時間などを決めましょう。また、読書をする時間を決めて、毎日の音読だけでなく、静かに本を読む黙読の習慣も身に付けましょう。

家庭での学習習慣の定着に向けて、家庭で話し合いましょう

「学び続ける人」を育てるために、子どもたちが一番安心して生活できる家庭で、リズム正しく生活し、毎日継続して学習に取り組むことが大切です。そして、発達段階に応じて、以下のような習慣や力を身に付けさせましょう。

小学校	低学年	宿題を最後までやりきらせるなど、基本的な学習習慣を身に付けさせましょう。
	中学年	進んで学習する姿勢を身に付けさせ、辞書や図鑑を使った調べ学習にも挑戦させましょう。
	高学年	授業の予習や復習、自主勉強など、教えてもらうのを待つのではなく、自分で学ぼうとする自学自習の習慣を身に付けさせましょう。
中学校	全学年	自分に合った勉強法を見つけ、時間を効率的に使えるようにしましょう。

家庭での学習習慣の定着をめざして、家庭生活・家庭教育を見直し、各家庭の事情に合わせた内容や方法を考える参考資料として、今回、「家庭学習の手引き」を作成・配布いたします。「家庭学習の手引き」では、小学校低学年（１・２年生）、中学年（３・４年生）、高学年（５・６年生）、中学校（１・２・３年生）に分けて、家庭での学習時間のめやす（学年×10～15分）や学習内容の特徴、学習の基本や家庭での支援など、学年に応じた家庭学習の在り方を具体的に示してあります。

各家庭の事情やお子さんの実態に合わせて、家での約束を家族で話し合いながら活用していただければと思います。

低学年(1･2年)

家庭学習のめやす

１０～３０分

基本的な学習習慣を身に付けよう

低学年（１・２年）では…

「早寝早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など基本的な生活習慣を身に付けることが学習習慣の定着に欠かせません。家族の助けを借りながら、学校での学習を受け学習内容や方法を決め、出来たことをほめることによって興味・関心を引き出し、意欲を高めることができます。

《学習の特徴》

★ 45分を１時間とした授業の中で「読み、書き、計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。その中には繰り返し練習することで力がつく学習内容がたくさんあります。

★「正しい姿勢で座る」「しっかり話を聞く」「鉛筆を正しく持つ」「次の日の授業の準備をする」「身の回りの整理整とんをする」ことが、学習の基本になります。

★ 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。

《家庭での支援》

- 学習を始める前にテレビを消しましょう。勉強をする場の整理整とんをしましょう。
- 学校からの連絡やお便り、次の日の授業や持ち物を子どもと一緒に確かめ、準備することが大切です。
- 学習時間を決めて、家庭学習をする時は近くにいてあげましょう。
- まずは、毎日宿題をやりきらせることを続けましょう。
- 一緒に買い物をしたり時計をよんだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。
- 読み聞かせや親子読書などで語らいを増やしましょう。
- 親も子も、相手の話を最後まで聞きましょう。

《家庭学習の内容》

こくご

（音読・読書）

・楽しみながら、大きな声で読めるようにしましょう。家庭での支援として、音読を聞き、感想を伝えてあげることも大切なことです。毎日続けて練習させてください。

・句読点（「、」や「。」）に気を付けて、すらすら読めるように練習しましょう。

・子どもの興味や関心、学年に応じた本をまわりに置き、たくさん読みましょう。

・家庭での支援として、読み聞かせをしてあげることも大切なことです。

（ひらがな・カタカナ・漢字）

・書き順や文字の形に気を付けて書きましょう。

・正しい姿勢で、ゆっくり丁寧に書きましょう。

（書く）

・楽しかったことやうれしかったことを自分のことばで絵日記や日記に書くこともすすめてください。

さんすう

・計算力を向上させるために、正しい計算手順を確実に身に付け、まずはゆっくり正確に計算しましょう。

・正しく計算できるようになったら、徐々に速くできるように練習しましょう。

・必ず見直しを行い、間違った問題は、もう一度やり直すことが重要です。

そのほか

・鍵盤ハーモニカを練習したり、身近な動植物の観察をしたりすることも大切なことです。

おうちでのやくそく

中学年(3･4年)

家庭学習のめやす

３０～６０分

自主的な学習習慣を身に付けよう

中学年（３・４年）では…

自立心が芽生えてくるとともに、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。語い（言葉）の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになると言われています。「急に勉強が難しくなった」という戸惑いや苦手意識をもつ子どもも出てきます。自信をもたせたり意欲をふくらませたりするような励ましが大切です。

《学習の特徴》

★ 総合的な学習の時間や社会、理科の学習が始まり、学習する内容も大きく広がります。

★ 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。

★ 算数では、四則計算（＋、－、×、÷）の基礎・基本を徹底して学ぶとともに、分数や小数など少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。

《家庭での支援》

● 家族のあたたかい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物を点検したりするなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるように支援していきましょう。

● 自分から机に向かう姿勢を育て、集中して取り組む習慣を付けさせることが大切です。

● 学習をする前に、学習する場所の整理整とんを行い、自分で今日の宿題を確認させ必ずやりきらせましょう。学校からのお便りなどを親に手渡す習慣を付けましょう。

● 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然などに触れる体験をさせましょう。

《家庭学習の内容》

国語

（音読・読書）

・毎日音読する習慣を身に付けましょう。

・文章を正確に読めるようにしましょう。

・いろいろな種類の本を選んで、進んで読むように心がけましょう。

（漢字）

・正しい書き順で、正確に文字が書けるようにしましょう。

・とめ、はね、はらい、字のバランスに気を付けて、繰り返し丁寧に練習しましょう。

（言葉）

・国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れるようにしましょう。

（書く）

・日記や作文などの書く機会を増やしましょう。

算数

・かけ算やわり算など正しい計算手順が身に付くよう、毎日練習しましょう。

・三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるように繰り返し練習しましょう。

その他

・学校で学習した内容を振り返り、自分の苦手なところや、計算、漢字の練習をしてみましょう。

・社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然に触れる体験や調べる活動をしましょう。

・音楽で習ったリコーダーの曲を練習しましょう。

家での約束

高学年(5･6年)

家庭学習のめやす

５０～９０分

自ら学ぶ自学自習の習慣を身に付けよう

高学年（５・６年）では…

論理的・抽象的思考を好むようになり、それに伴って、大人と対等に討論できる場を求めるようになります。また、自分の考えを認めてもらうと喜びを感じ、反対に筋の通らない「押し付け」には強く反発します。学習に対する意欲や興味・関心を高めるためには、周囲の大人が温かく見守り、励ましの言葉かけをしてくことが大切です。
生活のリズムが不規則にならないよう心がけ、目標を決めて計画的に学習を進めることが重要です。

《学習の特徴》

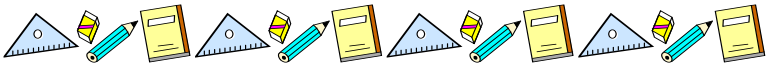
★ 学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
★ 筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
★ 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
★ 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を深めることができます。

《家庭での支援》

● 考える力が大人並みになり、自我が目覚め自分の考えを強く主張するようになります。「やればできる」という気持ちをもたせ、子どもの自尊感情を育てるように、認めたり励ましたりすることが大切です。
● 家族の一員として、お手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにしましょう。
● 学習する場所を決め整理整とんし、計画を立てて学習が進められるようにしましょう。
● 子どもが興味・関心をもって学習したことを話題にして、家族の語らいを広げましょう。

《家庭学習の内容》

国語



（音読・読書）
・情景を思い浮かべながら感情を込めて読むなど、自分のめあてを決めて音読をしましょう。
・詩や俳句などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
・いろいろな種類の本を選んでたくさん読むように心がけましょう。

（漢字）

・漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
・学習した漢字を使っての短文づくりに取り組みましょう。

（言葉）
・国語辞典や漢字辞典を手元に置き、進んで活用しましょう。

（書く）
・日記や、新聞や調べたことに対する意見文を書く機会を増やしましょう。

算数

・計算力を向上させるために、よく間違える計算は繰り返し練習しましょう。
・答えの確かめを自分でできるようにしましょう。
・新しく学習する内容を予習して、学習の見通しをもてるようにしましょう。

その他

・学校の学習内容を振り返りながら、教科書やノート、プリントなどを参考にして、自主的に勉強したり、苦手な内容に取り組んだりしましょう。
・理科で星の観察をしたり、社会で学習する生産物について調べたりするなど、調べ学習を行いましょう。
・その他の教科でも、学習した内容を家庭生活の中で実践したり、生活の中に生かしたりできるようにしましょう。

家での約束

中学校(1・2・3年)

家庭学習のめやす
７０～９０分以上

自分に合った勉強法を見つけ、時間を効率的に使おう

《学習の特徴と家庭での支援》

中学生になったら、とにかく早い段階で、中学生として必要な学習習慣を身に付けることです。中学生になったからといって、自分から勉強するようになるわけではありません。多くの子どもは、部活動で時間が制約されたり、学習内容が難しくなったりして、むしろ勉強が疎かになりがちです。それを克服しようとする気持ちはあるのですが、そこで立ち塞がるのが「勉強の仕方」です。中学校の学習の特性を考え、**自分に合った勉強法を見つけ**、それを自分のものにすることが、学習習慣の定着への第一歩です。

そこで、ご家庭にお願いしたいことが二つあります。一つ目は、子どもが「何が分からないのかを知る」ということです。子どもの学習の様子を知らないまま、ただ「勉強しなさい。」と言ってもなかなか子どもには伝わりません。二つ目は、勉強の内容を教えるよりも、勉強の仕方を教えたり、一緒に考えたりしてください。「ここを教えて。」と子どもが聞いてきたら、「どこまでわかる？」と躓きの原因を探って行く。励まし、褒めながら、自分（わが子）に合った勉強法を一緒に考えてみることが、とても大切です。

さて、１年生の夏休みが明けて２学期になっても、家庭学習の習慣ができていない場合は、何らかの対策を考えることがあるかもしれません。そのまま、普段は勉強せずに定期テストの前だけ詰め込むクセがついてしまうと…

◆公立中学校の定期テストであれば、ある程度の点数は取れる。（これが落とし穴！）
◆短期間で覚えた事柄は、繰り返し学習をしないと、短期間で忘れてしまう。
◆数学や英語のように積み重ねが大切な教科は、前の学年で理解しておかないと解らなくなる。
◆理科や社会のように覚えることがたくさんある教科は、いざ受験勉強を始めようとすると、１、２年生の内容をほとんど忘れていて、心理的にも不安だらけになる。

ということになってしまいます。

中学生の皆さんへ

《家庭学習をするにあたっての基本事項》

１　家庭で学習する環境を整えよう

・自分の学習をする場所、時間を決める。
（学習する場所には学習の妨げになるようなものは置かないようにする）
（テレビを見る時間や、ゲームをする時間、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末等を使用する時間なども制限する）
・学習の予定があるときは、友達と遊ぶ約束をしない。
（誘われても「勉強があるから」と言って断る勇気をもつ）

２　宣言しよう

・友人や家族に、自分の意欲や目標を伝えて、「やるしかない状況をつくりモチベーションを高める。」

中学校１年生

家庭学習時間の目安：最低 70 分

教科	毎日の学習	定期考査前の学習
国語	① のとき授業でやっている教科書の単元のところを読み、まず読めない漢字や意味のわからない語句がないかチェックする。 ②意味のわからない語句は必ず辞書で調べる。 ③詩や古典は音読する。 ④授業で使っているプリントやワークを見直す。 ★日ごろから１日 20 分以上、本または新聞を読んでいる人は必ず読解力が向上します。	①試験範囲の教科書のページ、プリント等、最低３回は読み返す。 ②漢字を繰り返し練習し、完璧にする。 ③プリントやワークにある問いを、答えを隠してもう一度やる。 ★余裕のある人は、前回の答案をみて、自分がどこでミスをしたかチェックする。
数学	①授業で出された宿題は必ずその日のうちにやる。 ②家庭学習用のプリントをやる。 ③ノートを見直し、その日の授業を振り返る。 ④ワークを開け、その日の授業で学習した部分を解く。 ⑤宿題、ワークをすべて解いた上でさらに余力があれば、自分で発展的な問題集を用意し、解いてみる。 ★１日 15 分の計算練習を毎日続けよう。 ★ワークは提出物のためにあわててやることがないようにする。 ★ワークなど答えのあるものについては、必ずその日のうちに〇つけする。間違えたり、わからなかった問題は正しい答え・解き方を書いた上で印をつけ、翌日にもう一度解いてみるとよい。	①解き終わっていないワークやプリントの問題があれば、できるだけ早めに終わらせる。 ②一度間違えた問題など印のついている問題をもう一度解き直し、理解できるまで繰り返す。 ③授業のノートを見直し、重要ポイントを復習する。 ④自分のミスの癖（符号の付け忘れ、分数の計算など）をよく把握し、見直しするとき特に気をつける。 ⑤テスト前日は早く寝る。
英語	①教科書本文を音読しよう。授業があったその日のうちに、スラスラ読めるように。（目安は５回!） ②Words の単語練習をしよう。10 回書いて、覚えられるものもあれば、10 回でもおぼえられないものもあるはず。自信のないものはチェックをつけておこう。 ★テスト前はチェックのついた単語を繰り返し、書こう。（発音しながら。）	ワークを完璧にしよう! ①まずは一通りやる。 ②答え合わせをして間違ってしまった問題にチェックをつける。（赤ペンで） ③もう一度、間違った問題だけやる。 ④答え合わせをして、再度間違った問題に再チェックする。（青ペンで） ⑤２度間違った問題と解答を別の紙に書き出し、自分の弱点を明確にする。
理科	①復習をしっかり行うこと。 ②実験の方法を理解すること。 ③問題集を活用すること。要点のまとめがあります。 ④科学に関心を持つこと。	①復習をしっかり行うこと。 ②実験の方法を見直す。 ③現象について自分の言葉で説明できるようにする。 ④作図など何度も繰り返して行ってみること。 ⑤問題集を活用すること。
社会	①予習・復習をしっかりしましょう。 ②予習は教科書を読むこと。 ③復習はワーク(自主学習)をやる。 ④社会に関するＴＶ番組を見る。	①授業で使用しているものをもう一度確認すること。(教科書の読み直し・ノートのまとめ・ワークをもう一度やる。) ②ワークの問題の解答欄は、答えを見ずに答えられるようにすること。

中学校２年生

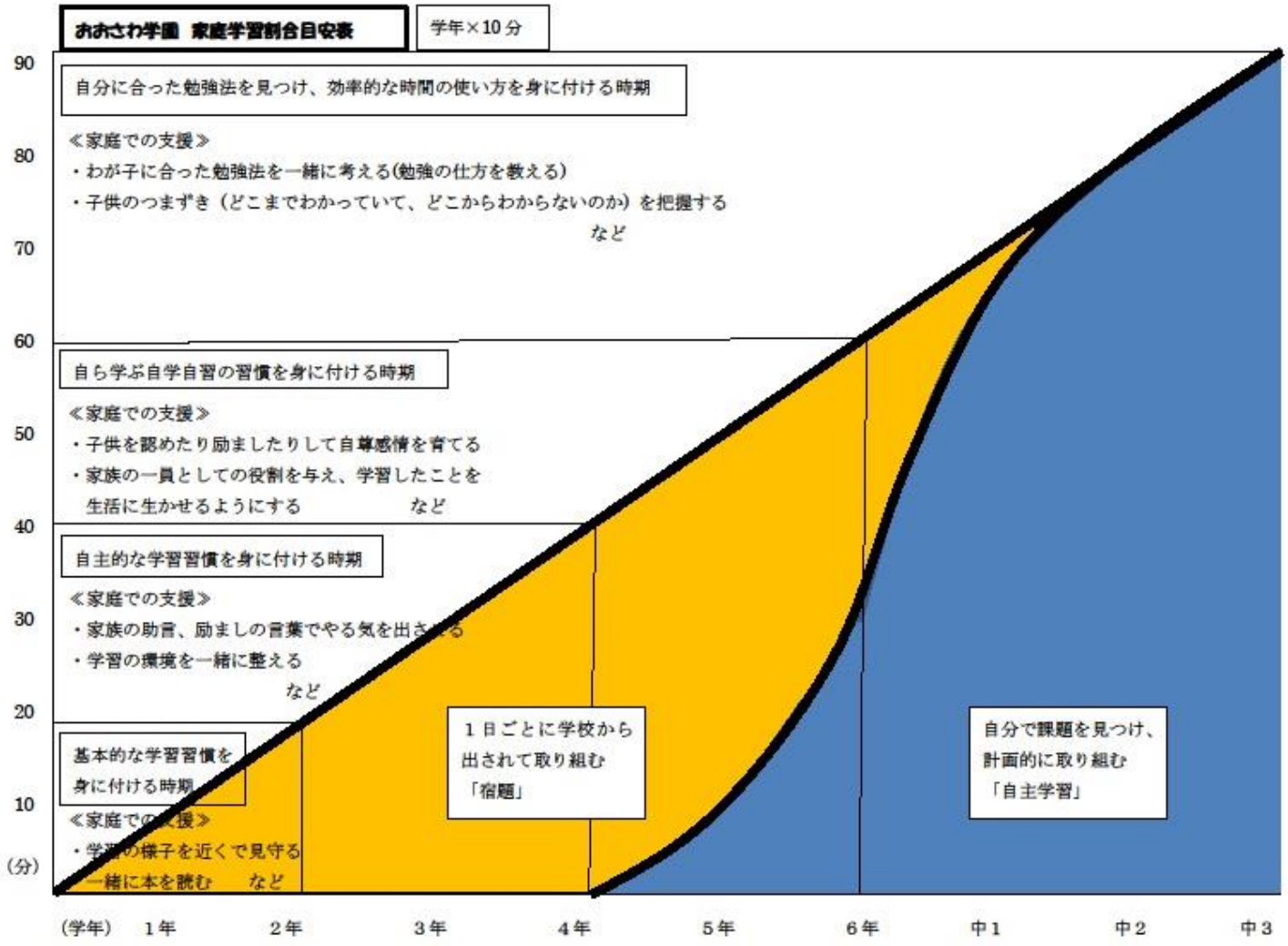
家庭学習時間の目安：最低 80 分

教科	毎日の学習	定期考査前の学習
国語	①そのとき授業でやっている教科書の単元のところを読み、まず読めない漢字や意味のわからない語句がないかチェックする。 ②意味のわからない語句は必ず辞書で調べる。 ③詩や古典は音読する。⇒ 気に入ったフレーズを暗唱する。 ④授業で使っているプリントやワークを見直す。 ⑤漢字や長文読解の問題集を用意し、１年間で最低１冊はやる。 ★日ごろから１日 20 分以上、本または新聞を読んでいる人は必ず読解力が向上します。	①試験範囲の教科書のページ、プリント等、最低３回は読み返す。（接続詞、指示語などチェックする。） ②漢字を繰り返し練習し、完璧にする。 ③プリントやワークにある問いを、答えを隠してもう一度やる。 ★余裕のある人は、前回の答案をみて、自分がどこでミスをしたかチェックする。
数学	①授業で出された宿題は必ずその日のうちにやる。 ②家庭学習用のプリントをやる。 ③ノートを見直し、その日の授業を振り返る。 ④ワークを開け、その日の授業で学習した部分を解く。 ⑤宿題、ワークをすべて解いた上でさらに余力があれば、自分で発展的な問題集を用意し解いてみる。 ★１日 15 分の計算練習を毎日続けよう。 ★ワークは提出物のためにあわててやることがないようにする。 ★ワークなど答えのあるものについては、必ずその日のうちに〇つけする。間違えたり、わからなかった問題は正しい答え・解き方を書いた上で印をつけ、翌日にもう一度解いてみるとよい。	①解き終わっていないワークやプリントの問題があれば、できるだけ早めに終わらせる。 ②一度間違えた問題など印のついている問題をもう一度解き直し、理解できるまで繰り返す。 ③授業のノートを見直し、重要ポイントを復習する。 ④自分のミスの癖（符号の付け忘れ、分数の計算など）をよく把握し、見直しするとき特に気をつける。 ⑤テスト前日は早く寝る。
英語	①教科書本文を音読しよう。授業があったその日のうちに、スラスラ読めるように。（目安は５回!） ②Words の単語練習をしよう。10 回書いて、覚えられるものもあれば、10 回でもおぼえられないものもあるはず。自信のないものはチェックをつけておこう。 ③予習でつくったノートは、授業でやったその日のうちに振り返る。 ★テスト前はチェックのついた単語を繰り返し、書こう。（発音しながら。）	ワークを完璧にしよう! ①まずは一通りやる。 ②答え合わせをして間違ってしまった問題にチェックをつける。（赤ペンで） ③もう一度、間違った問題だけやる。 ④答え合わせをして、再度間違った問題に再チェックする。（青ペンで） ⑤２度間違った問題と解答を別の紙に書き出し、自分の弱点を明確にする。
理科	①その日のうちにノートを見返す。分からない所や疑問点が一か所でもあればチェックをしておき、次の日に先生に質問できるようにしておく。 ②ワークシートをノートに貼り、実験の目的・方法を理解する。 ③最後に資料集で該当する分野を閲覧し、理解を深める。	①ノートを中心に復習する。 ②ワークの試験範囲を全てやる。 ★丸付けをし、間違えた所をチェック。間違えた問題はもう一度別のノートに解き直す。全ての問題を正解するまでこれを続ける。 ③仕上げにワークを見ながら問題の解答を口で答えられるかどうか確認する。
社会	①予習・復習をしっかりしましょう。 ②予習は教科書を読むこと。 ③復習はワーク(自主学習)をやる。 ④社会に関するＴＶ番組を見る。	①授業で使用しているものをもう一度確認すること。（教科書の読み直し・ノートのまとめ・ワークをもう一度やる。） ②ワークの問題の解答欄は、答えを見ずに答えられるようにすること。

中学校３年生

家庭学習時間の目安：最低 90 分

教科	毎日の学習	定期考査前の学習
国語	①そのとき授業でやっている教科書の単元のところを読み、まず読めない漢字や意味のわからない語句がないかチェックする。 ②意味のわからない語句は必ず辞書で調べる。 ③詩や古典は音読する。⇒ 暗唱にもチャレンジする。 ④授業で使っているプリントやワークを見直す。 ⑤入試に向けてできるだけ長文読解の問題集をやる。 ★日ごろから１日 20 分以上、本または新聞を読んでいる人は必ず読解力が向上します。	①試験範囲の教科書のページ、プリント等、最低３回は読み返す。（接続詞、指示語などをチェックする。） ②漢字を繰り返し練習し、完璧にする。 ③プリントやワークにある問いを、答えを隠してもう一度やる。 ④二百字作文を必ず書けるようにしておく。 ★余裕のある人は、前回の答案をみて、自分がどこでミスをしたかチェックする。
数学	①授業で出された宿題は必ずその日のうちにやる。 ②家庭学習用のプリントをやる。 ③ノートを見直し、その日の授業を振り返る。 ④ワークを開け、その日の授業で学習した部分を解く。 ⑤入試対策として、1、２年生の復習や、入試問題を解いてみる。 ★１日 15 分の計算練習を毎日続けよう。 ★ワークは提出物のためにあわててやることがないようにする。 ★ワークなど答えのあるものについては、必ずその日のうちに○つけする。間違えたり、わからなかった問題は正しい答え・解き方を書いた上で印をつけ、翌日にもう一度解いてみるとよい。	①解き終わっていないワークやプリントの問題があれば、できるだけ早めに終わらせる。 ②一度間違えた問題など印のついている問題をもう一度解き直し、理解できるまで繰り返す。 ③授業のノートを見直し、重要ポイントを復習する。 ④自分のミスの癖（符号の付け忘れ、分数の計算など）をよく把握し、見直しするとき特に気をつける。 ⑤テスト前日は早く寝る。
英語	①教科書本文を音読しよう。授業があったその日のうちに、スラスラ読めるように。暗唱までやると、文型が頭に入る。 ②新出単語の練習をしよう。10 回書いて、覚えられるものもあれば、10 回でもおぼえられないものもあるはず。自信のないものはチェックをつけておこう。 ③教科書の本文や単語、その意味をノートに書いて確認しよう。 ④１．２年の学習事項を復習する。	①ワークを完璧にしよう! ★まずは一通りやる。 ★答え合わせをして間違ってしまった問題にチェックをつける。（赤ペンで） ★もう一度、間違った問題だけやる。 ②単元テストや単語テストで間違えたところを書いて確認し、見直しする。 ③提出物に不備がないか（やり残し、書き忘れ、丸付け忘れがないか）確認をする。
理科	①復習をしっかり行うこと。 ②実験の方法を理解すること。 ③問題集を活用すること。要点のまとめがあります。 ④科学に関心を持つこと。都立入試では読解力も必要です。新聞や科学誌など文章を読んで慣れておきましょう。	①復習をしっかり行うこと。 ②実験の方法を見直す。 ③現象について自分の言葉で説明できるようにする。 ④作図など何度も繰り返して行ってみること。 ⑤問題集を活用すること。
社会	①予習・復習をしっかりしましょう。 ②予習は教科書を読むこと。 ③復習はワーク(自主学習)をやる。 ④社会に関するＴＶ番組を見る。 ⑤１・２年の復習を行う。	①授業で使用しているものをもう一度確認すること。(教科書の読み直し・ノートのまとめ・ワークをもう一度やる。) ②ワークの問題の解答欄は、答えを見ずに答えられるようにすること。


おおさわ学園 家庭学習割合目安表
学年×10分
90
80
70
60
50
40
30
20
10
(分)
自分に合った勉強法を見つけ、効率的な時間の使い方を身に付ける時期
≪家庭での支援≫
・わが子に合った勉強法を一緒に考える(勉強の仕方を教える)
・子供のつまずき（どこまでわかっていて、どこからわからないのか）を把握する
など
自ら学ぶ自学自習の習慣を身に付ける時期
≪家庭での支援≫
・子供を認めたり励ましたりして自尊感情を育てる
・家族の一員としての役割を与え、学習したことを
生活に生かせるようにする など
自主的な学習習慣を身に付ける時期
≪家庭での支援≫
・家族の励ま、励ましの言葉でやる気を出させる
・学習の環境を一緒に整える
など
基本的な学習習慣を
身に付ける時期
≪家庭での支援≫
・学習の様子を近くで見守る
一緒に本を読む など
1日ごとに学校から
出されて取り組む
「宿題」
自分で課題を見つけ、
計画的に取り組む
「自主学習」
(学年) 1年 2年 3年 4年 5年 6年 中1 中2 中3